

習志野ベトナム友好協会・会員の古井桃子様からNPOベトナム子ども基金との友好活動のご報告がありましたので、ご紹介させていただきます。

「ベトナムの子供たちとの交流を通して感じたこと」

古井桃子

私がベトナムの子供たちとの交流に興味を持ったのは、今から三年ほど前のことです。以前から国際ボランティアに興味を持ってはおりましたが、自分の子供たちがまだ小さかったこともあり、日々の子育てに精一杯で、心の片隅にはいつも置き去りにした気持ちがありながら、子育ての他に何かをするような余裕はありませんでした。

現在、私には小学校高学年の娘と一年生に上がったばかりの息子がおりますが、子供たちが大きくなってきて、生活が少し落ち着き、精神的にもゆとりが出来た頃、私はかねてから興味があったボランティア活動で、子供たちと一緒に何かできそうな事はないかと調べはじめました。そして、ネットで調べていくうちにベトナム子ども基金の活動を知り、里親になることにしました。

私の里親としての活動は、子どもたちを遠くから見守りながら、奨学金を支援し、子供たちの学業をサポートするという部分的な関わりです。私が里親になっているベトナムの子は、ちょうど娘と同じ年の女の子で、Nちゃんといいます。

Nちゃんと手紙のやりとりをするうちに、あるとき、彼女が「自分の家庭が国の貧困家庭に分類され、もう雨風を我慢しなくても良くなった、両親が日雇いの仕事から疲れて帰ってきても、これからはゆっくりと休み場所がある。」と書かれていたのを見て、私は衝撃を受けました。彼女たちが今までどんなところで暮らしていたのか、知る由もありませんでした。

そして、そのような厳しい状況の中でも、Nちゃんがいつもご両親を思いやり、周りの期待に応えようと一生懸命勉学に励んでいる様子や、家族が助け合い、肩を寄せ合って生きている姿を垣間見て、私はとても心を打たれました。彼女たち家族の間には、尊い絆があり、愛があるからです。

本当に美しく、価値のあるものは、目に見えず、心で感じるものだと思います。私は彼女たちにクリスマスプレゼントを贈り、奨学金を支援することで感謝されたかもしれませんが、本当に感謝するのは実は私の方で、彼女たちから目には見えないけれど多くの素晴らしい贈り物を頂きました。

これからも、Nちゃんのご家族が幸せでありますように、彼女が将来も輝いて生きることができるよう、家族ぐるみで応援していきたいと思っております。

いつの日か、私の家族とともにベトナムの子供たちと会いに行ける日を楽しみにしております。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった団体の皆様に感謝申し上げます。

